

教科	国語	科目	論理国語	単位数	2	学年	2 年
教科書（出版社）	新編論理国語（東京書籍）						
副教材（出版社）	プレミアムカラー国語便覧（数研出版）						

科目の目標（育成したい資質・能力）

	A 知識・技能	B 思考・判断・表現	C 主体的に学習に取り組む態度
目標	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付ける。	論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりする。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わる。
評価方法の例	・単元テスト ・定期考査 ・小テスト ・口頭試問 など	・定期考査 ・レポートの記述 ・探究活動の内容 ・学習状況の観察 など	・学習等の観察 ・課題等の記述 ・自己評価 など

上に示す観点に基づいて、学期ごとに評価し、学年末に5段階の評定に換算します。

学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

実施予定時期	単元名	学習内容
1 学期	対話とは何か（p8～） 世界をつくり替えるために（p15～） 「ふしぎ」ということ（p37～） 資料を整理し、テーマを吟味しよう（p46～）	
2 学期	対話とは何か（p8～） 世界をつくり替えるために（p15～） 「ふしぎ」ということ（p37～） 資料を整理し、テーマを吟味しよう（p47～）	
3 学期	対話とは何か（p8～） 世界をつくり替えるために（p15～） 「ふしぎ」ということ（p37～） 資料を整理し、テーマを吟味しよう（p48～）	

学習方法	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語での確に理解し効果的に表現する資質・能力を養うことを目的とします。「働くこと」「自然科学」など、多様なテーマの教材を取り上げます。ただ授業を聞くだけでなく、自分なりの意見や考えを持って主体的に学習に取り組みましょう。
ICT活用	ドキュメント（レポート・ワークシート）、スライド（発表資料・まとめ）、スプレッドシート（データ整理）、ジャムボード（意見集約・まとめ）、Forms（小テスト・振り返り・アンケート）

教科	国語	科目	文学国語	単位数	2	学年	2年
教科書（出版社）	新編文学国語（大修館書店）						
副教材（出版社）	プレミアムカラー国語便覧（数研出版）						

科目の目標（育成したい資質・能力）

	A 知識・技能	B 思考・判断・表現	C 主体的に学習に取り組む態度
目標	文学的な文章を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深める。 情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにする。 言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解する。	「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉える。 「書くこと」において、読み手の関心が得られるよう、文章の構成や展開を工夫する。 「読むこと」において、他の作品と比較するなどして、文体の特徴や効果について考察する。	作品に興味をもち、登場人物の言動や話のおもしろさを読み取る。 文学作品の描写や会話、特徴のある表現に興味をもち、登場人物の人間関係や心理を読み取る。 作品の特徴ある表現に興味をもち、仕事や自然に対する描写を読み取る。
評価方法の例	・単元テスト ・定期考査 ・小テスト ・口頭試問 など	・定期考査 ・レポートの記述 ・探究活動の内容 ・学習状況の観察 など	・学習等の観察 ・課題等の記述 ・自己評価 など

上に示す観点に基づいて、学期ごとに評価し、学年末に5段階の評定に換算します。

学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

実施予定時期	単元名	学習内容
1学期	明日をひらく 「少なくとも最後まで歩かなかった」 村上春樹 古典の世界1 「星取り」（醒睡笑） 古文の名文に触れる 小説を楽しむ 「ナイン」 井上ひさし 詩を味わう 道程 高村光太郎 小景異情 室生犀星 明日をひらく 言葉でスケッチ ①一言で心をつかもう ②魅力を言葉で表そう	
2学期	古典の世界2 「かぐや姫の昇天」（竹取物語） 社会に生きる 「神去なあなあ日常」 三浦しをん 表現を味わう 思いを言葉に②手紙を書こう 古典の世界3 「はしたなきもの」（枕草子） 名作を読む（一）「山月記」 中島敦	
3学期	詩を味わう 「永訣の朝」 宮沢賢治 古典の世界2 「月やあらぬ」（伊勢物語） 社会に生きる 「その日東京駅五時二五分発」 西川美和 巻末 文学の流れ 文学を生み出す 物語を紡ぐ②名曲から物語を書こう	

学習方法	上代から近現代までの我が国の文学について学びます。登場人物の人間関係や心理を読み取るために語句の意味を調べたり、自分との比較を通して思考を深めたりします。当時の人々が見たり考えたり感じたりしたことを当時の言葉を通じて知り、その共通点に気づくことを意識しながら学習します。
ICT活用	ドキュメント（レポート・ワークシート）、スライド（発表資料・まとめ）、スプレッドシート（データ整理）、ジャムボード（意見集約・まとめ）、Forms（小テスト・振り返り・アンケート）

教科	地理歴史	科目	歴史総合	単位数	2	学年	2 年
教科書（出版社）	詳述歴史総合（実教出版）						
副教材（出版社）	詳述歴史総合 徹底整理演習ノート（実教出版）、新詳 歴史総合（浜島書店）						

科目の目標（育成したい資質・能力）

	A 知識・技能	B 思考・判断・表現	C 主体的に学習に取り組む態度
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・私たちの生活や身近な地域などに見られる諸事情を基に、それらが日本や日本周辺の地域及び世界の歴史とつながっていることを理解する。 ・資料に基づいて歴史が叙述されていることを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・近代化、国際関係の変化や大衆化、グローバル化などの歴史の変化と、日本や日本周辺の地域及び世界の歴史との関連性について考察し、表現する。 ・複数の資料の関係や異同に着目して、資料から読み取った情報の意味や意義、特色などを考察し、表現する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校社会科における学習の成果を活かし、必履修科目である「歴史総合」を学ぶ意義や目的、歴史的な考察の方法やその特質について、主体的に理解を深めようとする。
評価方法の例	<ul style="list-style-type: none"> ・単元テスト ・期末考査 ・教科書準拠ノート ・ワークシート 	<ul style="list-style-type: none"> ・単元テスト ・期末考査 ・教科書準拠ノート ・ワークシート 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書準拠ノート ・ワークシート ・討論や発表 ・レポート課題 ・プレゼンテーション

上に示す観点に基づいて、学期ごとに評価し、学年末に5段階の評定に換算します。

学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

実施予定時期	単元名	学習内容
1 学期	第1編 近代化と私たち	第1章 近代化への胎動 第2章 欧米の市民革命と国民国家の形成 第3章 アジアの変容と日本の近代化
2 学期	第1編 近代化と私たち 第2編 国際秩序の変化や大衆化と私たち	第4章 帝国主義の時代 第5章 第一次世界大戦と大衆社会 第6章 経済危機と第二次世界大戦
3 学期	第3編 グローバル化と私たち	第7章 冷戦と脱植民地化 第8章 多極化する時代 第9章 グローバル化と現代社会

学習方法	歴史総合は、中学までの歴史学習をふまえ、諸資料を活用して情報を読みとったりまとめたりする技能を取得し、人々の生活や社会のあり方が近代化にともない変化したことについて考察する科目です。時代背景や因果関係を踏まえて事象を捉えられるように、教科書や資料集を活用して学習しましょう。
ICT活用	ドキュメント（レポート・ワークシート）、スライド（発表資料・まとめ）、スプレッドシート（データ整理）、ジャムボード（意見集約・まとめ）Forms（小テスト・振り返り・アンケート）

教科	公民	科目	公共	単位数	2	学年	2 年
教科書 (出版社)	公共 (東京書籍)						
副教材 (出版社)	公共ワークノート (東京書籍)						

科目の目標 (育成したい資質・能力)

	A 知識・技能	B 思考・判断・表現	C 主体的に学習に取り組む態度
目標	現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手がかりとなる概念とともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べとめる技能を身に付ける。	現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手がかりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。	現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養う。人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民主権をなす公民として、平和と繁栄を図ることや、相互に主権を尊重し、協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。
評価方法の例	○定期テスト ○単元テスト ○レポート課題 ○資料の読み取り ○学習の振り返り	○定期テスト(論述問題など) ○レポート課題 ○討論・発表 ○学習の振り返り	○レポート課題 ○討論・発表 ○学習の振り返り

上に示す観点に基づいて、学期ごとに評価し、学年末に5段階の評定に換算します。

学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

実施予定時期	単元名	学習内容
1 学期	第1部 「公共のとびら」 第1章 公共的な空間をつくる私たち-社会のなかの自己	現代社会に生きる青年 社会的な関係のなかで生きる人間
	第1部 「公共のとびら」 第2章 公共的な空間における人間としての在り方生き方-共に生きるための倫理	功利主義と幸福の原理 義務論と公正の原理
	第1部 「公共のとびら」 第3章 公共的な空間における基本的原理-私たちの民主的な社会	公共的な空間における協働とは 民主主義とは 立憲主義とは 人権保障の意義と展開
2 学期	第2部 自立した主体として社会に参画する私たち 第1章 民主政治と私たち	私たちの民主政治 地方自治のしくみと役割 国会のしくみと役割 内閣のしくみと役割 政治参加と選挙 政党と利益集団 メディアと世論
	第2部 自立した主体として社会に参画する私たち 第2章 法の働きと私たち	法と社会規範の役割 法の成立と適用 市民生活と法 多様な契約 消費者の権利と責任 司法のしくみと役割 刑事司法と司法 参加の意義
	第2部 自立した主体として社会に参画する私たち 第3章 経済社会で生きる私たち	私たちと経済 市場経済のしくみ 国民所得と経済成長 金融のしくみと働き 中央銀行の役割と金融 環境の変化 財政の働き 財政の課題 社会保障の考え方 社会保障の課題とこれから
3 学期	第2部 自立した主体として社会に参画する私たち 第4章 私たちの職業生活	働くということ 多様な職業選択 労働者の権利 現代の雇用・労働問題
	第2部 自立した主体として社会に参画する私たち 第5章 国際社会のなかで生きる私たち	国際社会の成り立ち 国際連合の役割 日本の平和主義と冷戦 冷戦後の世界と日本 現代の紛争とその影響 平和な国際社会に向けて 貿易のしくみ 国際金融のしくみと動向 グローバル化と今日の国際経済 国際経済の諸課題

学習方法	<p>「公共」は高等学校1年もしくは2年で履修する公民科の必修科目として、主権者として社会に参加するために必要な知識を学ぶだけではなく、適切な判断力や様々な社会的課題に対して適切に判断し、解決する力を身につけることを目的としています。</p> <p>授業は、教科書を中心に進めていきます。まずは教科書を理解することが大切です。時事的な話題を絡めながら授業を行っていくので、ニュースや新聞などをよんでいるとさらに理解を深めることができると思います。単元テストは、知識を問う問題が多くなる予定です。定期テストでは、教科書の中にあるデータ等を利用した問題を出題する予定です。資料の読み取りができるようになっていけるといいと思います。高校卒業後に役に立つような情報をたくさん提供していこうと考えています。今後自立しながら自分で生きていくことを踏まえ、世の中のことについて興味関心を持つことができれば、生きる力を身につけることができます。</p> <p>これらの学習を通じて、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することをめざします。</p>
ICT活用	Google (資料等検索)、ドキュメント (レポート)、スライド (発表資料)、スプレッドシート (データ整理)、ジャムボード (意見集約)、Forms (単元テスト・振り返り・アンケート)

教科	数学	科目	数学Ⅱ	単位数	3	学年	2 年
教科書（出版社）	最新 数学Ⅱ（数研出版）						
副教材（出版社）	REPEAT 数学Ⅱ（数研出版）						

科目の目標（育成したい資質・能力）

	A 知識・技能	B 思考・判断・表現	C 主体的に学習に取り組む態度
目標	いろいろな式，図形と方程式，三角関数の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。	数の範囲や式の性質に着目し，等式や不等式が成り立つなどについて論理的に考察する力，座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し，方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり，図形の性質を論理的に考察したりする力，関数関係に着目し，事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力，関数の局所的な変化に着目し，事象を数学的に考察したり，問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力が身についている。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度，粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度，問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとしている。
評価方法の例	<ul style="list-style-type: none"> ・単元テスト ・小テスト ・定期考査 	<ul style="list-style-type: none"> ・単元テスト ・小テスト ・定期考査 ・レポートの記述 ・探究活動の内容 ・学習状況の観察 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習状況の観察 ・課題、ノート等の記述 ・自己評価 ・振り返り ・発表

上に示す観点に基づいて、学期ごとに評価し、学年末に5段階の評定に換算します。

学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

実施予定時期	単元名	学習内容
1 学期	第1章 式と証明 第2章 複素数と方程式	多項式の乗法・因数分解・割り算 恒等式，等式・不等式の証明 複素総と2次方程式の解 高次方程式
2 学期	第3章 図形と方程式 第4章 三角関数	点と直線，円 軌跡と領域 三角関数
3 学期	第4章 三角関数	加法定理

学習方法	数学は、毎日コツコツ取り組む教科です。苦手意識を持っている人も多いと思いますが、毎日取り組むことで、苦手を克服できます。まずは、たくさんの問題に触れることから始めましょう！
ICT活用	スタディエイドビューア（課題配信）ドキュメント（レポート）、スライド（発表資料・まとめ）、スプレッドシート（データ整理）、ジャムボード（意見集約・まとめ）、Forms（小テスト・振り返り・アンケート）

教科	数学	科目	数学B	単位数	2	学年	2年
教科書(出版社)	最新 数学B (数研出版)						
副教材(出版社)	REPEAT 数学II + B (数研出版)						

科目の目標 (育成したい資質・能力)

	A 知識・技能	B 思考・判断・表現	C 主体的に学習に取り組む態度
目標	数列, 統計的な推測についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに, 数学と社会生活の関りについて認識を深め, 事情を数学化したり, 数学的に解釈したり, 数学的に表現・処理したりする技能を見につける。	離散的な変化の規則性に着目し, 事象を数学的に表現し考察する力, 確率分布や標本分布の性質に着目し, 母集団の傾向を推測し判断したり, 標本調査の方法や結果を批判的に考察したりする力, 日常の事象や社会の事象を数学化し, 問題を解決したり, 解決の過程や結果を振り返って考察したりする力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度, 粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度, 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり, 評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。
評価方法の例	<ul style="list-style-type: none"> ・単元テスト ・定期考査 ・小テスト 	<ul style="list-style-type: none"> ・単元テスト ・小テスト ・定期考査 ・レポートの記述 ・探究活動の内容 ・学習状況の観察 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習状況の観察 ・課題、ノート等の記述 ・自己評価 ・振り返り ・発表

上に示す観点に基づいて、学期ごとに評価し、学年末に5段階の評定に換算します。

学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

実施予定時期	単元名	学習内容
1学期	第1章 数列	数列, 等差数列, 等比数列, 和の記号 Σ 階差数列, いろいろな数列, 漸化式
2学期	第2章 統計的な推測	確率変数と確率分布, 確率変数の期待値, 分散と標準偏差, 二項分布, 連続型確率変数, 正規分布, 母集団と標本, 仮説検定
3学期	第3章 数学と社会生活	ごみの量の推定, 偏差値, 回帰直線, 回帰曲線

学習方法	数学は、毎日コツコツと取り組むことが大切な教科です。苦手意識を持っている人も多いと思いますが、毎日取り組むことで、苦手を克服できます。まずは、たくさんの問題に触れることから始めて下さい。
ICT活用	スタディエイドビューア(課題配信)、ドキュメント(レポート)、スライド(発表資料・まとめ)スプレッドシート(データ整理)、ジャムボード(意見集約・まとめ)、Forms(小テスト・振り返り・アンケート)

教科	理科	科目	化学	単位数	2	学年	2 年
教科書 (出版社)	化学基礎(東京書籍)・高等学校 化学(啓林館)						
副教材 (出版社)	セミナー化学基礎+化学(第一学習者) , ニューアチーブ化学基礎(東京書籍)						

科目の目標 (育成したい資質・能力)

	A 知識・技能	B 思考・判断・表現	C 主体的に学習に取り組む態度
目標	化学基礎の知識をもとに、化学の基本的な概念や原理・原則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する知識・技能を身に付ける。	化学的な事物・現象を対象に、探究の過程を通して、情報の収集、仮説の設定、実験の計画、実験による検証、実験データの分析・解釈などの探究の方法を習得し、自身の考えを表現できるようにする。	日常生活や社会に関連する化学的な事物・現象に対して主体的に関わり、それらに対する気付きから自ら課題を設定し、学習を調整しながら解決しようとする態度を身に付ける。
評価方法の例	・単元テスト ・定期考査 ・実験、観察での活動状況 など	・単元テスト ・定期考査 ・ペアワーク、グループワークの活動状況 ・実験、観察での活動状況 など	・課題レポートへの取組状況 ・振り返りレポート ・自己評価とその後の学習の調整状況 など

上に示す観点に基づいて、学期ごとに評価し、学年末に5段階の評定に換算します。

学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

実施予定時期	単元名	学習内容
1 学期	教科書 化学基礎 3 編 物質の変化	2 章 酸と塩基 3 章 酸化還元反応
2 学期	教科書 高等学校 化学 第 2 部 物質の変化と平衡	第 2 章 化学反応と電気エネルギー 第 1 節 電池 第 2 節 電気分解 第 1 章 固体の構造
3 学期	教科書 高等学校 化学 第 1 部 物質の変化と平衡	第 2 章 物質の状態変化 第 3 章 気体の性質

学習方法	<p>化学は、化学基礎に加えてさらに広範囲の知識を活用し、日常生活や先端科学技術に関わる事物・現象の原理・原則を学ぶことができます。多くの知識や定理を用いた計算なども登場してきますが、物質やイオンの動きをイメージし、定理の中身を考えながら運用していきましょう。難解なところは、ペアワークやグループワークの中で互いに学びあい、お互いにきちんと理論立てて説明できるまで、学習する意識を大切にしてください。</p> <p>頑張ってもらいたいこと</p> <p>①学習ファイルの管理 ②単元テストへの対策 ③学習の振り返り・調整 ④定期考査 ⑤ペアワーク、グループワークでの積極的な意見交換</p>
ICT活用	ドキュメント(レポート)、スプレッドシート(実験データ整理)、ジャムボード(意見交換)、Forms(振り返り、アンケート)

教科	理科	科目	生物基礎	単位数	2	学年	2 年
教科書（出版社）	生物基礎（東京書籍）						
副教材（出版社）	ニューアチーブ 生物基礎						

科目の目標（育成したい資質・能力）

	A 知識・技能	B 思考・判断・表現	C 主体的に学習に取り組む態度
目標	日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けるようにする。	生物や生物現象から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究する力を養う。	生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。
評価方法の例	・単元テスト ・定期考査 ・小テスト ・口頭試問 など	・定期考査 ・レポートの記述 ・探究活動の内容 ・学習状況の観察 など	・学習状況の観察 ・課題等の記述 ・自己評価 など

上に示す観点に基づいて、学期ごとに評価し、学年末に5段階の評定に換算します。

学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

実施予定時期	単元名	学習内容
1 学期	1 編 生物の特徴	1 章 生物の多様性と共通性 2 章 生物とエネルギー
	2 編 遺伝子とそのはたらき	1 章 遺伝情報とDNA
2 学期	2 編 遺伝子とそのはたらき	2 章 遺伝情報とタンパク質
	3 編 ヒトの体の調節	1 章 体内環境と情報伝達 2 章 免疫のはたらき
3 学期	4 編 生物の多様性と生態系	1 章 植生と遷移 2 章 生態系と生物の多様性

学習方法	私たち人間も生物です。生物を学ぶことは自分を知ること。何かひとつでも「生き物ってすごい！」と感じられることがあったらうれしいです。「生物は暗記科目」などと言われがちですが、ただひたすら丸暗記するのではなく、項目ごとのつながりを考えながら理解していきましょう。
ICT活用	ドキュメント（レポート・ワークシート）、スライド（発表資料・まとめ）、スプレッドシート（データ整理）、ジャムボード（意見集約・まとめ）、マイマップ（地図作成）、Forms（小テスト・振り返り・アンケート）

教科	理科	科目	地学基礎	単位数	2	学年	2 年
教科書（出版社）	高等学校 地学基礎（第一学習社）						
副教材（出版社）	ネオパルノート 地学基礎（第一学習社）						

科目の目標（育成したい資質・能力）

	A 知識・技能	B 思考・判断・表現	C 主体的に学習に取り組む態度
目標	日常生活や社会との関連を図りながら、地球や地球を取り巻く環境についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けるようにする。	地球や地球を取り巻く環境から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究する力を養う。	地球や地球を取り巻く環境に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、自然環境の保全に寄与する態度を養う。
評価方法の例	・単元テスト ・定期考査 ・小テスト ・口頭試問 など	・定期考査 ・レポートの記述 ・探究活動の内容 ・学習状況の観察 など	・学習状況の観察 ・課題等の記述 ・自己評価 など

上に示す観点に基づいて、学期ごとに評価し、学年末に5段階の評定に換算します。

学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

実施予定時期	単元名	学習内容
1 学期	第1章 地球のすがた	第1節 地球の概観 第2節 プレートの運動
	第2章 地球の活動	第1節 地震 第2節 火山活動
2 学期	第3章 大気と海洋	第1節 地球のエネルギー収支 第2節 大気と海水の運動
	第4章 宇宙と地球	第1節 宇宙の太陽の誕生 第2節 太陽系と地球の誕生
	第5章 生物の変遷と地球環境	第1節 地層と化石
3 学期	第5章 生物の変遷と地球環境	第2節 地球と生物の変遷
	第6章 地球の環境	第1節 地球環境の科学 第2節 日本の自然環境

学習方法	地学基礎は、地球上でおこるさまざまな事物・現象に対する見方・考え方を養う科目です。暗記することは多いですが、「なぜそうなるのか」ということを考えて理解したうえで覚えてください。
ICT活用	ドキュメント（レポート・ワークシート）、スライド（発表資料・まとめ）、スプレッドシート（データ整理）、ジャムボード（意見集約・まとめ）、マイマップ（地図作成）、Forms（小テスト・振り返り・アンケート）

教科	保健体育	科目	体育	単位数	3	学年	2 年
教科書（出版社）	現代高等保健体育改訂版（大修館書店）						
副教材（出版社）	現代高等保健体育ノート改訂版 ・ アクティブスポーツ【総合版】（大修館書店）						

科目の目標（育成したい資質・能力）

	A 知識・技能	B 思考・判断・表現	C 主体的に学習に取り組む態度
目標	運動の合理的、計画的な実践に関する具体的な事項及び豊かなスポーツライフを継続するための理論について理解している。また、運動の合理的な実践を通して、運動の特性に応じた段階的な技能を身に付けている。	豊かなスポーツライフの実現を目指して、自己や仲間の課題に応じた運動の取り組み方や健康の保持及び体力を高めるための運動の計画を工夫させる。また、個人及び社会生活における健康・安全について、課題の解決を目指して考え、判断し、それらを表現している。	運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、運動の合理的、計画的な実践に主体的に取り組ませる。また、個人生活及び社会生活における健康・安全について関心をもたせ、意欲的に学習に取り組ませる。
評価方法の例	・ 定期考査 ・ 学習状況の観察及び記録	・ 学習状況の観察及び記録 ・ ワークシートの記述 ・ 定期考査	・ 学習状況の観察及び記録 ・ ワークシートの記述 ・ 定期考査

上に示す観点に基づいて、学期ごとに評価し、学年末に5段階の評定に換算します。

学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

実施予定時期	単元名	学習内容
1 学期	体づくり運動 球技 ダンス 体育理論	体ほぐしの運動、実生活に生かす運動の計画 ゴール型、ネット型、ベースボール型から選択 創作ダンス、フォークダンス、現代的なリズムのダンスから選択 1 「スポーツにおける技能と体力」 2 「スポーツにおける技術と戦術」
2 学期	球技 ダンス 陸上競技 体育理論	ゴール型、ネット型、ベースボール型から選択 創作ダンス、フォークダンス、現代的なリズムのダンスから選択 長距離走 3 「技能の上達過程と練習」 4 「効果的な動きのメカニズム」
3 学期	球技 体育理論	ゴール型、ネット型、ベースボール型から選択 5 「体力トレーニング」 6 「運動やスポーツでの安全の確保」

学習方法	健康の保持増進などのために行われる運動や一定のルールや文化性をもつスポーツは、体を動かすという人間の本源的な欲求にこたえらるとともに、爽快感、達成感、他者との連帯感等の精神的充足や楽しさ、喜びをもたらす、さらには、体力の向上や精神的なストレスの発散、生活習慣病の予防など、心身の両面にわたる健康の保持増進に資するものです。これらのことを理解して学習活動に主体的に取り組んでください。
ICT活用	①電子黒板及びスクリーンの動画視聴 ②タブレットカメラ及びビデオ機能（振り返り・資料） ③スプレッドシート（データ整理） ④Forms（振り返り・アンケート）

教科	保健体育	科目	保健	単位数	1	学年	2 年
教科書（出版社）	現代高等保健体育改訂版 （大修館書店）						
副教材（出版社）	現代高等保健体育ノート改訂版 （大修館書店）						

科目の目標（育成したい資質・能力）

	A 知識・技能	B 思考・判断・表現	C 主体的に学習に取り組む態度
目標	生涯を通じる健康及び社会生活と健康について、健康を保持増進させるための課題の解決に役立つ自らの健康を適切に管理すること及び環境を改善していくための基礎的な事項を理解させる。	生涯を通じる健康及び社会生活と健康について、健康を保持増進させるための課題の解決を目指して、知識を活用した学習活動などにより総合的に考えさせ、判断させ、それらを表現させる。	生涯を通じる健康及び社会生活と健康について、健康を保持増進するためには、自らの健康を適切に管理すること及び環境を改善していくことが重要であることに関心を持たせ、学習活動に意欲的に取り組ませる。
評価方法の例	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・小テスト 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・ノートの記述 ・ワークシートの記述 ・探究活動の内容 ・学習状況の観察 	<ul style="list-style-type: none"> ・ノートの記述 ・ワークシートの記述 ・学習状況の観察

上に示す観点に基づいて、学期ごとに評価し、学年末に5段階の評定に換算します。

学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

実施予定時期	単元名	学習内容
1 学期	生涯を通じる健康	1 「ライフステージと健康」 ～ 7 「中高年期と健康」
2 学期	生涯を通じる健康	8 「働くことと健康」 ～ 10 「健康的な職業生活」
	健康を支える環境づくり	1 「大気汚染と健康」 ～ 9 「医薬品の制度とその活用」
3 学期	健康を支える環境づくり	10 「さまざまな保健活動や社会的対策」 ～ 11 「健康に関する環境づくりと社会参加」

学習方法	保健は非常に魅力的な特性を備えています。その1つは、「健康・安全」がすべての人にとって、自己実現するプロセスを根底から支えているという事実です。「健康・安全」について、あらゆる角度から探求していきましょう。
ICT活用	<ul style="list-style-type: none"> ①スライド（資料・まとめ） ②スプレッドシート（データ整理） ③Forms（小テスト・振り返り・アンケート）

教科	英語	科目	英語コミュニケーションⅡ	単位数	3	学年	2 年
教科書（出版社）	VISTA English Communication II（三省堂）						
副教材（出版社）	英語マスターノート（増進堂）						

科目の目標（育成したい資質・能力）

	A 知識・技能	B 思考・判断・表現	C 主体的に学習に取り組む態度
目標	外国語の音声や語彙、表現、文法、限後の働きなどの知識を書くこと、聞くことを実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況な等に応じて適切に活用できる技能を身につけるようにする。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを適切に表現したり伝え合うことができるようにする。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、読み手、話し手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図れるようにする。
評価方法の例	・単元テスト ・定期考査 ・小テスト ・口頭試問 など	・単元テスト ・定期考査 ・小テスト ・口頭試問 など	・学習状況の観察 ・課題等の記述 ・自己評価 など

上に示す観点に基づいて、学期ごとに評価し、学年末に5段階の評定に換算します。

学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

実施予定時期	単元名	学習内容
1 学期	<ul style="list-style-type: none"> Lesson 7 Artificial Intelligence Lesson 8 Is There a Santa Clause? Lesson 9 Kids' Guernica 	<ul style="list-style-type: none"> A I について・受け身 サンタクロースについて・関係代名詞 ピカソの絵画について・分詞・関係副詞
2 学期	<ul style="list-style-type: none"> Lesson 10 Ethical Fashion Lesson 1 World Dance Performance Lesson 2 A Piece of Cake 	<ul style="list-style-type: none"> エシカルについて・比較 世界のパフォーマンスを楽しもう want ~to do 慣用句の日英比較・疑問詞・if節
3 学期	<ul style="list-style-type: none"> Lesson 3 Qukka Lesson 4 Designing Stamps Lesson 5 Mont-Saint-Michel 	<ul style="list-style-type: none"> オーストラリアの動物・使役動詞・知覚動詞 切手デザイナーの仕事・形式主語と目的語のit 世界遺産「モン・サン・ミッシェル」の歴史 現在完了進行形・過去完了形・過去完了進行形

学習方法	授業中は英語を「使う」ことを意識して学習しましょう。また、教科書で取り上げられた題材についての知識を幅広く収集し、様々なところに興味関心を持って学習を行ってください。授業以外でも、ICTを活用して英語に触れる時間を積極的に作りましょう。
ICT活用	ドキュメント（レポート・ワークシート）、スライド（発表資料・まとめ）、スプレッドシート（データ整理）、ジャムボード（意見集約・まとめ・宿題）、サイト（背景知識の収集）、Forms（小テスト・振り返り・アンケート）

教科	英語	科目	論理・表現 II	単位数	2	学年	2 年
教科書 (出版社)	VISTA Logic and Expression II (三省堂)						
副教材 (出版社)	英語マスターノート (増進堂)						

科目の目標 (育成したい資質・能力)

	A 知識・技能	B 思考・判断・表現	C 主体的に学習に取り組む態度
目標	外国語の音声や語彙、表現、文法、限後の働きなどの知識を書くこと、聞くことを実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況な等に応じて適切に活用できる技能を身につける。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを適切に表現したり伝え合うことができる。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、読み手、話し手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図れる。
評価方法の例	・単元テスト ・定期考査 ・小テスト ・口頭試問 など	・単元テスト ・定期考査 ・小テスト ・口頭試問 など	・学習状況の観察 ・課題等の記述 ・自己評価 など

上に示す観点に基づいて、学期ごとに評価し、学年末に5段階の評定に換算します。

学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

実施予定時期	単元名	学習内容
1 学期	<ul style="list-style-type: none"> Lesson 7 Which is faster? Lesson 8 Great Inventions Lesson 9 Save the Earth 	<ul style="list-style-type: none"> 比較 (比較級/最上級/原級) / 驚く 助動詞① (can/may) / 理由を述べる 助動詞② (must/have to/should) / 事実を伝える
2 学期	<ul style="list-style-type: none"> Lesson 10 Masterpiece Lesson 11 My Future Job Lesson 12 World Heritage Lesson 13 Pictogram 	<ul style="list-style-type: none"> 受動態/同意する 不定詞① (名詞的) / 動名詞/順序を述べる 不定詞② (副詞的/形容詞的) / 出典・引用を示す 分詞/図表を説明する
3 学期	<ul style="list-style-type: none"> Lesson 14 Cool Japan Lesson 15 What's SDGs? 	<ul style="list-style-type: none"> 関係代名詞/例を挙げる 仮定法 (If ~ / I wish ~) / 意見を述べる

学習方法	授業中は英語を「使う」ことを意識して学習しましょう。また、教科書で取り上げられた題材についての知識を幅広く収集し、様々なところに興味関心を持って学習を行ってください。授業以外でも、ICTを活用して英語に触れる時間を積極的に作りましょう。
ICT活用	ドキュメント (レポート・ワークシート)、スライド (発表資料・まとめ)、スプレッドシート (データ整理)、ジャムボード (意見集約・まとめ・宿題)、サイト (背景知識の収集)、Forms (小テスト・振り返り・アンケート)

教科	情報	科目	情報叡知	単位数	2	学年	2 年
教科書 (出版社)	大学生のための動画制作入門 言いたいことを映像で表現する技術 (慶應義塾大学出版会)						
副教材 (出版社)	なし						

科目の目標 (育成したい資質・能力)

	A 知識・技能	B 思考・判断・表現	C 主体的に学習に取り組む態度
目標	多様なコミュニケーションの形態とメディアの特性との関係について理解し、文字、音声、静止画、動画などを組み合わせたコンテンツを制作する技能を身につける。	目的や状況に応じて、コミュニケーションの形態を考え、文字、音声、静止画、動画などを選択し、組み合わせを考える。また、情報デザインに配慮してコンテンツを制作し、評価し改善する。	情報デザインに配慮してコンテンツを制作し、自ら評価し改善することが出来る。また、制作段階では、グループなどで協働して取り組むことを前提として、役割分担を行う作業を進めることが出来る。
評価方法の例	・単元テスト ・定期テスト など	・定期テスト ・ワークシート ・企画書発表 など	・自己評価シート ・学習状況の観察 ・課題等の記述 など

上に示す観点に基づいて、学期ごとに評価し、学年末に5段階の評定に換算します。

学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

実施予定時期	単元名	学習内容
1 学期	Part 1 映像はどのように作られているか —制作工程とその仕組み Part 2 企画のたて方 —誰に、何を、どのように	Part 1 1 ディレクターの役割と機能 2 映像における制作工程とその特徴 3 原則を踏まえた上での 「アマチュア向けの映像制作工程モデル」 Part 2 1 考え方の基本 2 企画書を書いてみる 3 企画の実際 -ケーススタディ
2 学期	Part 3 事前取材とロケハン —撮影に入る前にやっておくこと Part 4 粗構成の考え方 —演出面から見た手法	Part 3 1 アプローチの注意点 2 事前取材とロケハン 3 インタビューの方法 Part 4 1 構成を決める要素 2 身近な素材から 具体的に粗構成を考えてみよう
3 学期	Part 5 伝えたいことから考える撮影 —演出面から見た手法	Part 5 1 カメラワークの基本 2 制作意図から考えるカメラの位置 3 構図の取り方の実際 4 自然光を味方にする／音の録り方

学習方法	撮影機器の使い方や動画を作る際の事前準備などを学んでいきます。自分の考えや伝えたいことを、動画を使って発信していくことがメインになります。制作段階では、グループを通して作業していくので、周りの生徒と一つの作品を作ることを理解しながら学習していきましょう。
ICT活用	ドキュメント (レポート)、スライド (発表資料・まとめ)、スプレッドシート (データ整理)、ジャムボード (意見集約・まとめ)、Forms (小テスト・振り返り・アンケート)、カメラ・マイク・ノートパソコン (撮影・編集)

教科	専門家庭	科目	フードデザイン	単位数	2	学年	2	年
教科書（出版社）	フードデザイン Food Changes LIFE（教育図書）							
副教材（出版社）	なし							

科目の目標（育成したい資質・能力）

	A 知識・技能	B 思考・判断・表現	C 主体的に学習に取り組む態度
目標	栄養、食品、献立、調理などについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身につける。	食生活の現状から食生活全般に関する課題を発見し、食生活の充実向上を目指して課題を解決する力を身につける。	食生活の充実を目指して自ら学び、食生活の総合的なデザインと食育の推進に主体的かつ協働的に取り組む。
評価方法の例	・単元テスト ・定期考査 ・小テスト ・調理実習のできばえ など	・単元テスト ・定期考査 ・レポートの記述 など	・学習状況の観察 ・課題等の記述 ・自己評価 など

上に示す観点に基づいて、学期ごとに評価し、学年末に5段階の評定に換算します。

学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

実施予定時期	単元名	学習内容
1学期	1章 健康と食生活 実践編 献立と調理	1 食事の意義と役割 2 食を取り巻く現状 調理実習
2学期	2章 栄養素と食品 実践編 献立と調理	1 栄養素と消化・吸収 2 各栄養素の働き 4 何をどれだけ食べる？ 調理実習
3学期	4章 調理してみよう 実践編 献立と調理	1 なぜ調理するのか 2 調理操作と調理器具 調理実習

学習方法	フードデザインでは、2年間を通して食について学びます。学んだ知識や技術を日常生活に生かせるよう、毎回の授業を大切にして、実習等にも積極的に取り組みましょう。
ICT活用	ドキュメント（レポート）、スライド（発表資料・まとめ）、Forms（小テスト・振り返り・アンケート）、classroom（課題提出など）

教科	総合的な探究の時間	科目	グローバル・プロデュースII	単位数	1	学年	2 年
教科書（出版社）	一生使える探究のコツ入門編（トモノカイ）						
副教材（出版社）	なし						

科目の目標（育成したい資質・能力）

	A 知識・技能	B 思考・判断・表現	C 主体的に学習に取り組む態度
目 標	地域行政の組織を理解し地域活性化のための課題を発見し解決するための力を身につける。	情報の選択や科学的な視点に基づいてデータを分析する力を身につける。	グループ活動を通して協働的に取り組むとともに、他人の意見の理解・尊重と自らの意見の合意形成しようとする態度を身につける。
評 価 方 法 の 例	ワークノート レポート提出	プレゼンテーション 面談	ワークノート提出 レポート提出 プレゼンテーション

上に示す観点に基づいて、学期ごとに評価し、学年末に5段階の評定に換算します。

学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

実施予定時期	単元名	学習内容
1 学期	<ul style="list-style-type: none"> 探究活動の実践 活動報告書の作成 発表する 	<ul style="list-style-type: none"> グループ別探究活動をとおして、課題解決を図る 活動を振り返り、新たな課題を発見する 探究したことをまとめ発表する
2 学期	<ul style="list-style-type: none"> 探究活動の実践 活動報告書の作成 発表する 	<ul style="list-style-type: none"> グループ別探究活動をとおして、課題解決を図る 活動を振り返り、新たな課題を発見する 探究したことをまとめ発表する
3 学期	<ul style="list-style-type: none"> 探究活動の実践 活動報告書の作成 	<ul style="list-style-type: none"> グループ別探究活動をとおして、課題解決を図る 活動を振り返り、新たな課題を発見する

学習方法	地域貢献活動を通して、国際人として課題を解決していくのに必要な知識やスキル、コミュニケーション能力を身に付ける。
ICT活用	パソコン、タブレット、プロジェクター、ビデオカメラ